

ドン・ボスコ生誕200周年ニュース

BICENTENARY OF BIRTH NEWS



No.11 / 2014年11月18日 / ドン・ボスコ生誕200周年実行委員会発行

サレジオ家族の皆さん

実りの秋、収穫の秋。目黒星美学園中学高等学校から、ひまわりの種を収穫した記事をご紹介します。

◆来年に向けて「ひまわり」の種を収穫



ドン・ボスコ生誕200周年記念の一環として、サレジオ家族（修道院・教会・学校）に配付されたひまわりの種は、この夏、目黒星美学園中学高等学校でも多くの花を咲かせ、私たちに喜びと元気を与えてくれました。小さな苗から多くの種を実らせるまで見守り、世話をしてきた生徒たちは、10月上旬、真剣に、また嬉しそうに種をとっていました（写真は10月28日、2回目の種の収穫をした時）。ドン・ボスコ生誕200周年のシンボルフラワーが、今なお私たちが関わりをもっている被災地・宮城県荒浜地区の産であるというつながりに大きな意味を感じつつ、このひまわりの栽培が新たな本校の伝統となるよう、来年も大切に育てたいと思います。（生活環境委員会顧問談 目黒星美学園中高 HP より）

皆さんも、来年8月16日の生誕200周年記念日にひまわりを咲かせるため、種の収穫をお忘れなく！

◆ドン・ボスコの母マルゲリータにならう

ドン・ボスコ生誕200周年を記念するにあたり、この偉大な聖人を生み育てた「母」について学びならうことが、フェルナンデス総長から勧められています。

ドン・ボスコの母マルゲリータ・オキエナがジョヴァンニを生んだのは27歳の時でした。それから2年足らずで夫と死別。3人の息子を抱え、マルゲリータは一人で家庭を支えたのでした。愛情と信仰と道徳で導く母マルゲリータの教育法は、ドン・ボスコの教育法の生きた手本になりました。

ドン・ボスコが重病で倒れ、ベッキで長い休養の後、母を連れてオラトリオに戻りましたが、この時マルゲリータは58歳。これから田舎で孫と穏やかな日々を過ごそうという夢を置いて、残された11年の生涯をドン・ボスコと苦労を共にしながら、オラトリオの少年たちの母（マンマ）として捧げました。天に召されたのは69歳、1856年11月25日のことです。現在は列福調査中で「尊者」の称号が与えられています。

ドン・ボスコの母マルゲリータについては、『ドン・ボスコ自叙伝』、『マンマ・マルゲリタ ドン・ボスコの母』（ドン・ボスコ社）などの本で詳しく記されています。ぜひお読みください。

◆「この母にして この子あり」サレジオ家族三日間の祈り

マンマ・マルゲリータの帰天日11月25日を迎えるにあたり、皆さんに「三日間の祈り」をお勧めします。この祈りは、ドン・ボスコ生誕200周年にあたって、サレジアニ・コオペラトリー日本管区の皆さんが、岡道信神父様の協力により作成されたものです。帰天前の三日間である11月22日～24日に特にお勧めしますが、この200周年の間、いつでもこの祈りをささげることができます。ぜひ皆さんの支部・事業所・ご家庭・個人で、静かな祈りのひとときをもちましょ。

【「この母にして この子あり」サレジオ家族三日間の祈り】は、サレジオ会ホームページの「ライブラリー」→「祈り」<salesians.jp/library/prayer>からもダウンロードできます。

◆Facebook「ドン・ボスコの風」へ200周年記念イベントの投稿をお待ちしています！

各地の記念イベントの様子をぜひ投稿してください。 www.facebook.com/dbnokaze

